

第3学年 道徳科学習指導案

3年1組 35名
指導者 豊崎 恵巳

1 主題名 思いやりの心

B-(6) 親切、思いやり	相手のことを思いやり、進んで親切にすること。
------------------	------------------------

2 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容

思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。相手のことを思いやり、親切的な行為をすると望ましい生き方をして気持ちよく過ごすことができ、相手も嬉しい気持ちになる。それは、よりよい人間関係を築いていく土台となる。中学年の児童は、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになる。一方で、他の人々の考え方や感じ方が自分たちの考え方や感じ方と同様であると思い込むことがあると言われている。そこで、自分のことばかりではなく相手を大切に思いやり、相手の気持ちをじっくり考えることは親切につながることに気付かせ、進んで親切にしようとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

本学級では、積極的に友達と関わる児童が多く、友達に対して優しい行動をしている姿がよく見られる。掃除の時間に、バケツを一人で運ぼうとしている友達を手伝ったり、片付けに時間を要している友達がいれば代わりに片付けたり、問題が解けずにいる友達がいれば寄り添ったりするなど、日頃から友達を助けたいという気持ちがよく表れている。

しかし、相手がどのような助けを必要としているか、相手はどのようにしてほしいと思っているのかという考えまでは至っておらず、相手の気持ちをじっくりと考える経験は少ない。

本時では、相手の気持ちを自分のこととして想像し、相手のためにできることは何かをよく考えることによって、親切にすることの大切さに気付かせたい。そして、親切にすると相手が喜び、自分も気持ちよく望ましい生き方ができることから、進んで親切にしようとする心情を育てたい。

(3) 教材について

(教材名「一さつのおくりもの」)

出典：新編 新しいどうとく3 東京書籍

主人公クマタのお気に入りの絵本「貝がらのおくりもの」には、仲良しのリスのために自分が一番好きな物をあげるキツネが登場する。クマタは「いくら仲良しでも、一番好きな物をあげるなんてできないよ。」と話しかける。そんなある日、山の向こうの村で災害が起きた。そのお見舞いとして、絵本を一冊選ぶことにする。お気に入りの絵本を選ぶつもりはなかったクマタだが、一晩という長い時間をかけて考える。そして、よく考えた末にお気に入りの絵本を送ることに決めるといふ、キツネの親切とクマタの親切が繋がる内容である。

クマタの親切にする際の様々な葛藤を話し合うことを通して、相手の喜びを考えるとすることは、親切的な行為につながることに気付かせたい。相手を思いやることの大切さを感じさせることのできる教材である。

(4) 主体的に考え、伝え合い、共に伸びる授業の工夫

人間の心の弱さとして、親切にすることが望ましいと分かっているにもかかわらず、親切にしたい気持ちと、自分を優先したい気持ちとの間で、親切的な行為を選択することが難しいこともある。中心発問などでは、クマタの揺れ動く心について考えさせる。児童にとって、共感できるクマタの葛藤場面を取り上げることで、自分事として主体的に考えることができるようにしたい。「ぼくの大事な物はあげたくない。」「災害で大事な物をたくさん失った人に、どんなことをしたら元気づけられるのだろう。」など、様々な意見をペアやグループで話し合うことで、多様な意見に触れ、児童が多面的・多角的に考えられるようにする。展開後半で、導入時のめあてを再度問うことで、児童が自分のことのように相手を大切に思いやる心の大切さを、実感できるようにする。

3 本時の学習

(1) ねらい

自分のこととして想像しながら相手の状況や気持ちをよく考え、思いやりの心をもって進んで親切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問と予想される反応 ◎主発問	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 「親切」について考え、本時のめあてをつかむ。	○親切な人とは、どんな人ですか。 ・優しい人。 ・困っている人を助ける人。	○親切についての事前アンケートから、本時のねらいに対する関心を高める。
	親切にするために大切なことはなんだろう		
展開	2 教材について話し合う。 (1) キツネのようにできないクマタの気持ちについて考える。 (2) 一晩、クマタがどんなことを考えていたのか、考える。 (3) ササエの手紙を何回も読み返すクマタの気持ちを考える。	○「あげるなんてできないよ。」というクマタはどんな気持ちでしょう。 ・リスのためにあげられるキツネはえらいね。 ◎クマタは一晩、どんなことを考えたのでしょうか。 ・お気に入りには、あげたくない。 ・大事な物をたくさん失った人は、どんなにつらいだろう。 ・どうすることが助けることになるのかな。 ・ぼくのお気に入りをおあげることで、誰かが元気になってくれるかもしれない。 ○クマタはどんな気持ちで読んでいるでしょう。 ・キツネみたいになれて嬉しい。 ・悩んだけど、絵本を送ってよかった。	○キツネの親切を「えらいね。」と思っても、自分にはできないという気持ちを理解できるようにする。 ○大きなハートの中に児童の反応を板書することで、クマタの悩んでいる心情を捉えて、自分事として考えられるようにする。 ○グループで話し合ったことを全体で共有することを通して、相手のことをじっくり考えることが、親切な行為に繋がるということに気付くことができるようにする。 ○ササエの言葉やキツネへのクマタの気持ちから、親切は相手も自分も嬉しい気持ちにすることになることに気付くことができるようにする。
	3 本時の学習を振り返り、これからの生活を考える。	○今日の学習で考えたことを書きましょう。 ・自分と同じように、相手の気持ちを大事にすることが大切。 ・相手の立場や気持ちを大事にして、これから親切にしていきたい。	○黒板の言葉を確認して、よりよい生き方をしていきたいという心情を高められるようにする。 ☆相手のことを思いやって、進んで親切にしようとする思いを深めている。 (ワークシート・発言)
終末	4 本時のまとめをする。	○みなさんにある思いやりの心を、これからも膨らませていきましょう。	○相手を思いやった親切な行為をするという思いを、さらに高められるようにする。